ヘブライ人への手紙６章１３～２０節

神はアブラハムに約束する際に、御自身より偉大な者にかけて誓えなかったので、御自身にかけて誓い、「わたしは必ずあなたを祝福し、あなたの子孫を大いに増やす」と言われました。こうして、アブラハムは根気よく待って、約束のものを得たのです。そもそも人間は、自分より偉大な者にかけて誓うのであって、その誓いはあらゆる反対論にけりをつける保証となります。神は約束されたものを受け継ぐ人々に、ご自身の計画が変わらないものであることをいっそうはっきりと示したいと考え、それを誓いによって保証なさったのです。それは、目指す希望を持ち続けようとして世を逃れて来たわたしたちが、二つの不変の事柄によって力強く励まされるためです。この事柄に関して、神が偽ることはありえません。わたしたちの持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入って行くものなのです。イエスは、わたしたちのために先駆者としてそこへ入って行き、永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです。

横須賀長沢キリスト教会
２０２０年7月１２日　第二主日礼拝説教要約
ヘブライ人への手紙６章１３節～２０節
「安定した錨」
説教者　大須賀綾子牧師

今朝も、皆様とご一緒に礼拝を主にお献げ出来ますことを心から感謝致します。新型コロナウイルスの世界的な感染という出来事によって、わたしたちの大切にしていたと思っていた礼拝の形を始めとして、日々の生活の全てのことが大きく変化してしまいました。
　衣食住、どの場面においても、人それぞれの判断に、感染への対応が求められるようになりました。恐れることなのか、恐れるに足らないことかも、混乱しています。情報も錯綜し、何を基準にすれば良いのかも、わかりません。病気そのもので苦しむだけではなく、その対策で悩み、不安を覚え続けています。

　その中で、わたしたちには、変わらないものが与えられ続けていることを、改めて知らされます。主なる神様の私たちへの愛、イエス様の十字架の贖いと罪からの救い、永遠の命の約束です。
この約束が、変わらず手元の置くことが許されている、みことば、聖書を通してわたしたちに寄り添い、伝えつづけられてきました。そして、わたしたちは思いを尽くして祈り、心を尽くして礼拝を献げ、力を尽くして神様の愛に信頼し答えていくことが許されています。
　わたしたちの日々が、みことばによって導かれることを、わたしたちは今改めて知らされています。そして、一週間の始めの主日の日曜日の朝、わたしたちは、イエス様に招かれて礼拝に集い、見える人、見えない人、出会える人、出会えない人と共に、主を讃美し、祈り、みことばにあずかり、献身の思いを新たにされて、一週間の旅路へと送り出されます。

　今日はヘブライ人への手紙からのみことばに聴きます。この聖書にあるヘブライ人とは、イスラエルの神を主と呼び、主なる神からいただいた律法を基準に生きる、みことばを聖書とし、主なる神から愛されている民だと信じている人々のことを指します。
そこで、手紙の著者は、ヘブライ人の最も大切にしてきた聖書の言葉から、イエス様の愛と恵みを説明します。

　イスラエルの始め、主なる神が小さな部族、アブラハムをよび出し、そして、与えられた祝福を想い起こさせるところから、神の愛、が語られます。
　創世記のアブラハムへの神の言葉が、ずっと繋がってイエス様の十字架の出来事の時代まで確実に継がれてきたことが語られます。みことばとは、祝福の約束、神様からの一方的な契約です。一方的、つまり、時代や状況、環境によって左右されてしまう人の側に、誓約、契約の保証を求めることなく、揺るぎない、決して変わることのない、ぶれることも、崩れることもない神さまの側が保証する契約がみことばなのだと、著者は語るのです。

　この契約をもって、人々に神様の愛が注がれ、恵みを受けて祝福に預かり、豊かに生きること、命に希望を持つことを主はくださっているのです。明日があり、連なる次の世代が必ず与えられることが、約束されているのです。イスラエルの一族たちだからこそ、ずっと先祖代々信頼してきた人々だからこそ、この意味を知っているだろう、と著者は語りました。

　神様は偽ることがないのです。そして、神様の恵みを、希望が与えられているのです。愛されているので、祝福されているので、わたしたちはあらゆることから自由なのです。ここでは、その希望、その恵みの確実な約束を、著者は船の「錨」で、表現しました。
「錨」というものはとても不思議なものです。
皆様ご存じのように、錨は船にくっついている付属品です。
しかし、この錨によって、船は海の上、水の上で浮いているように見えても、しっかり海底のある場所に留められるのです。錨は、船にそのまま置いてある間は特に何か機能しているものではありません。ただ、船に載せられたもの、なだけです。船の向かう先に、どこでも運ばれていき、船と一緒に必ずある、それだけのものです。ところが、船が止まる、停泊する時に、錨が、働くのです。錨が安定して、しっかりと働くので、船は留まれるのです。また、錨を下ろして引きずりながら船は動くものでもないのです。

船の錨のように、イエス様の愛は、わたしたちにくっついています。イエス様は、私たちが向かう航海に、必ず一緒に伴ってくださいます。わたしたちという船が、人生の海を走り続ける間、どんな時の、どんな状況でも、必ず、イエス様がわたしたちと共におられます。北へ南へ東へ西へ、わたしたちが縦横無尽に、自由に動く間、イエス様が、わたしたちという船に載っておられるのです。そして、わたしたちが止まる時、わたしたちが立つべきところに立たされる時、そして、休みたい時、補給したい時、イエス様が、つまり錨が、しっかりとわたしたちを止めるところに、留めてくださるのです。

神を讃美し、礼拝する存在として、人は創造されました。その始めとして、その形として、イエス様が人として私たちの中にたち、先立って、礼拝を導いてくださいます。イエス様に委ね、イエス様にしっかりと立って、日々を過ごしてまいりましょう。
安定した錨として、常に私たちの航海に伴ってくださるイエス様に、より頼みつつ、大海原へ船出したわたしたちは、旅路を進んでまいりましょう。
主の導かれる港にとどまるとき、どこかで静かに停泊するとき、イエス様という錨に留められていることを感謝して、過ごしてまいりましょう。

《祈祷》
愛する主なる神様、御名をほめたたえます。いつも共にいてくださるイエス様を感謝いたします。より頼みつつ、日々を過ごせますように。悲しみ、困難の中にある方々に、主の御手がありますように。イエスキリストの御名を通してお祈りいたします。アーメン。